
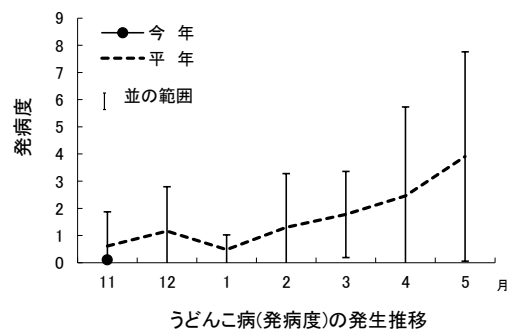
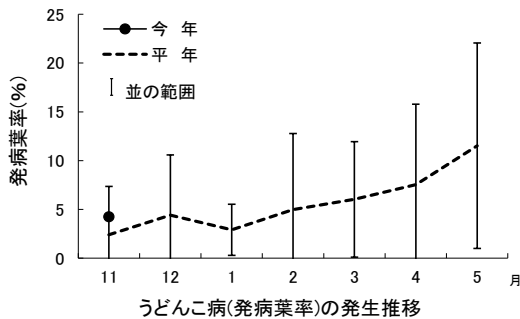


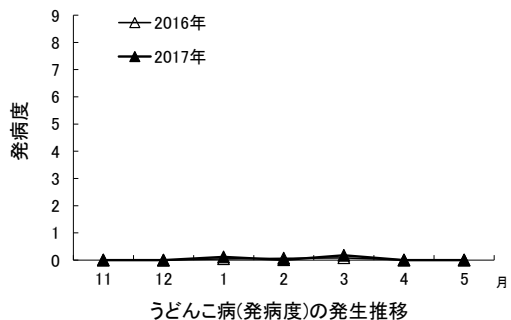
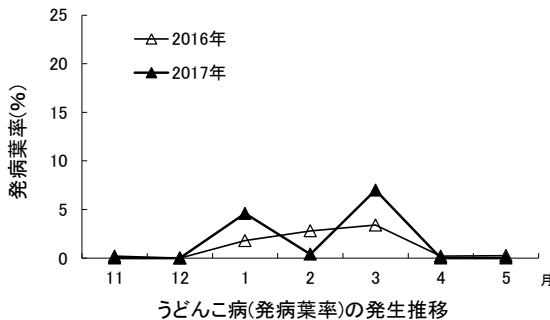
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移及び、今後1か月の平均気温が平年より高い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の比較




過去2年間の推移



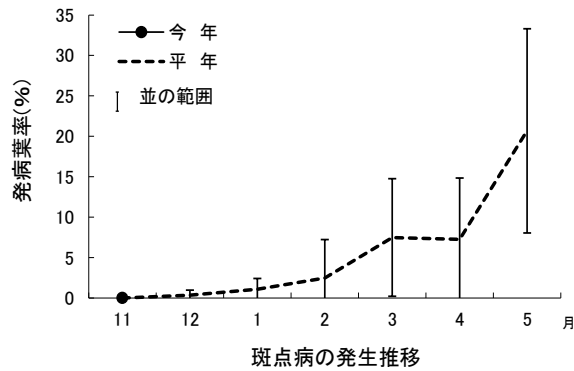
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

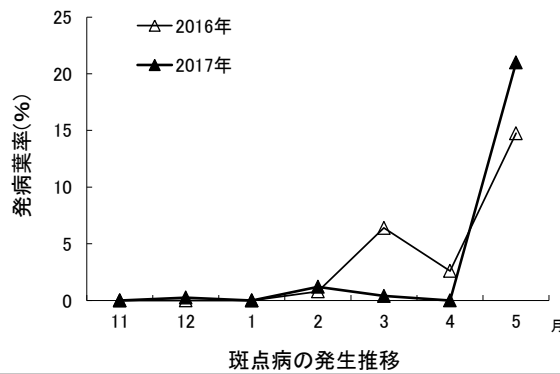
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の比較




過去2年間の推移



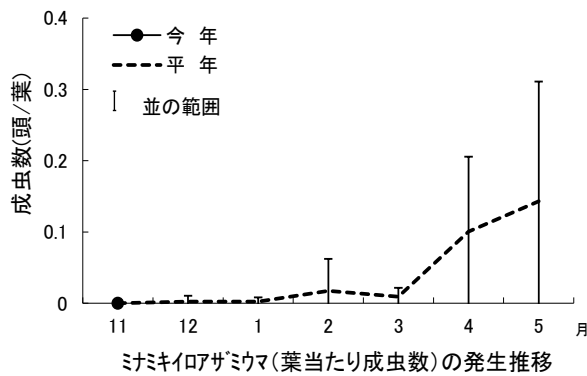
防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

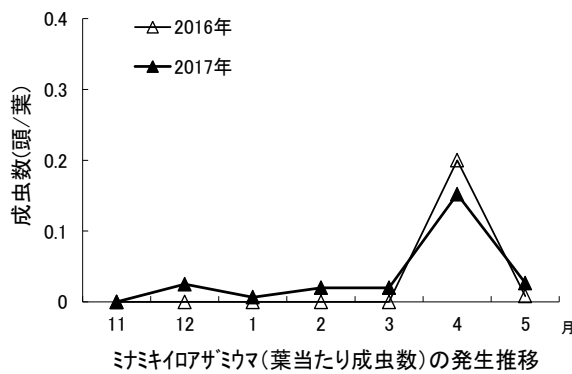
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		果実の被害
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の比較




過去2年間の推移



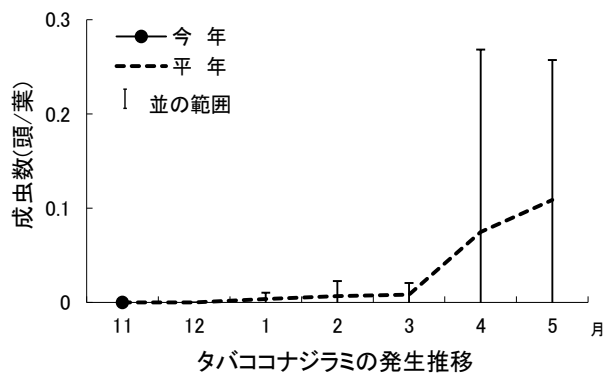
防除のポイント

- ・ 本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

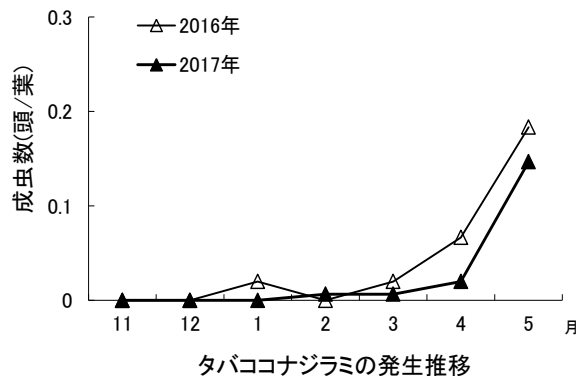
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の比較




過去2年間の推移



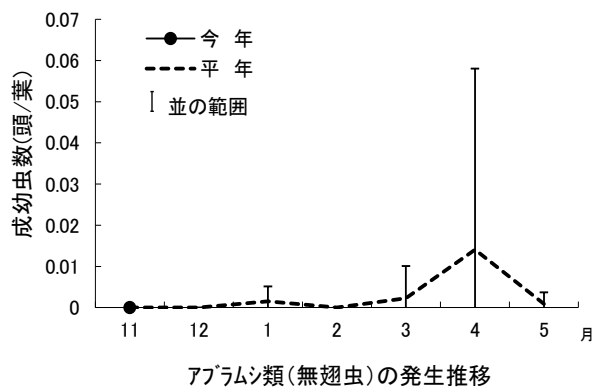
防除のポイント

- ・多発すると排泄物によるすす病が発生し、光合成を阻害する。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

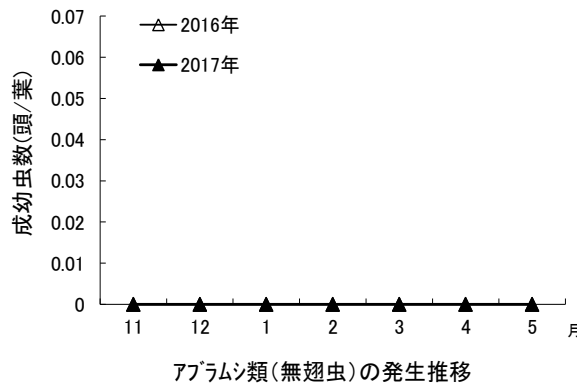
作物	ゴーヤー（施設）	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成幼虫数の平年の発生推移より、11月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の比較



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に発生するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。
- ・幼虫は白い脱皮殻を生じる。発見した際は、近くで本種が発生している可能性がある。
- ・ハウス出入口は寒冷紗で覆いをし、翅有虫の侵入を防止する。



有翅虫



幼虫と白い脱皮殻